

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	066 -	事業名	高齢者日常生活支援事業	担当部課	福祉部長寿課			
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち	会計区分	一般会計				
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	予算区分(款 - 項 - 目)					
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち	3-1-2 老人福祉費					
	法定受託事務の有無	—						
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 高齢者住宅改修事業補助金交付要綱						
	事業開始の背景、経緯等	高齢者の健康的な生活を支援し、日常生活の安全と利便の向上を図ることで、その福祉の増進に資することを目的とする。						
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 加齢や認知症の進行等により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活環境の改善のための支援を行うことで、健康的な日常生活の維持を図る。						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民等						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるようにする。						
	事業を構成する事務事業(B票)	① 緊急通報システム事業	改善・見直し	④ 高齢者防犯対策事業	改善・見直し			
	② 寝具洗濯乾燥事業	改善・見直し	⑤ 高齢者住宅改修事業	改善・見直し				
	③ 家具転倒防止事業	拡充	⑥					
コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	予算	12,552	14,159	14,036	14,584	13,466
			決算	12,981	15,331	13,521	13,317	
	人件費(B)	千円	決算	716	3,055	3,933	2,786	
総コスト(A)+(B)	千円	決算	13,697	18,386	17,454	16,103		
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 事業利用者数	人	目標	230	247	265	290	330
			実績	270	324	338	327	
	B 補助金支給件数	件	目標	7	8	10	10	10
			実績	9	15	8	18	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。								
B 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。								
C								
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様のサービスが提供されている。						
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値を上回っており、着実に高齢者等の生活支援ができています。						
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 概ね目標値を上回っており、着実に高齢者等の生活支援ができています。						
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後の急速な高齢化に伴い、現行制度では近い将来に財源不足になることが予測されるため、介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の導入に伴い事業の見直しが必要と考えられる。						
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支援を必要としている人が確実にサービスを利用することができるよう、制度の周知及び利用方法の改善を進める必要がある。						
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 次期計画期間を目途に対象要件の見直し、補助事業の統廃合により、交付申請手続の簡易化を図り、利用者の利便性を図る。						

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・各種事業の受益者負担の割合を見直してください。(所得等に応じて1～3割など幅を持たせる など)
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者日常生活支援事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	①	緊急通報システム事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成8年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】65歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の方のみの世帯及び日中又は夜間において長時間に渡り独居状態になる重度身体障がい者 【内容】緊急通報装置を貸出し、請負事業者が定期的に安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	9,548 9,498	10,248 9,907	10,210 9,753	10,210 7,585	8,984
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		緊急通報システム業務委託					5,865 千円
(2)		高齢者住宅緊急通報システム業務委託					966 千円
(3)		緊急通報システム保守点検委託					519 千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
利用者数	人	見込	145	155	165	175	185
		実績	182	198	204	197	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
緊急通報装置を貸出し、センターによる定期的な安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

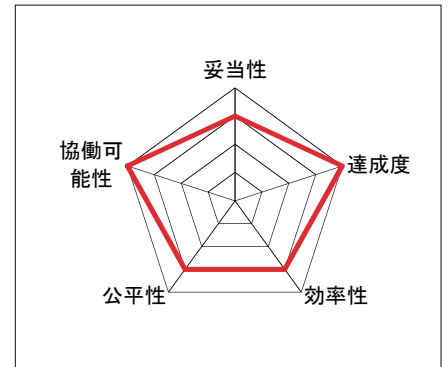
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢化、核家族化によって、日常生活上の不安を軽減し、安心して生活できる環境整備への需要が高まっている。 (高齢者実態把握調査対象世帯2,382世帯【H30年8月1日現在】)

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
10,210 千円 8,984 千円 Δ 1,226 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】 高齢者等が安心して自宅で生活できる環境整備を図るために事業を継続しつつ、本人負担金の納付方法などの改善により利便性を向上する必要がある。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか) 継続的に実施することで、高齢者等が安心して生活できる環境を整備した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	-	-	406	420
実績	-	-	406	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
協力員、民生委員の協力を得て見守りをしている。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
緊急通報装置を貸出し、請負事業者が定期的な安否確認をすることで、ひとり暮らし高齢者等が安心して生活することができる。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
対象世帯の利用率が低く、十分な周知がなされていない。高齢者等が安心して自宅で生活できる環境を整備するために事業を継続しつつ、本人負担金の納付方法などの改善により利便性を向上する必要がある。

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者日常生活支援事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	②	寝具洗濯乾燥事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和62年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】65歳以上で要介護3以上の寝たきり状態又は認知症の方、65歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の方のみの世帯及び身体障がい者手帳1～2級の方 【内容】寝具洗濯乾燥費用の9割を助成
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、衛生的で快適な生活を送ることができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	551 528	551 841	551 1,033	997 925	1,053
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		寝具洗濯乾燥事業委託				925	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
利用者数	人	見込	55	57	60	80	110
		実績	68	100	111	107	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))> 寝具洗濯乾燥費用の9割を助成							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

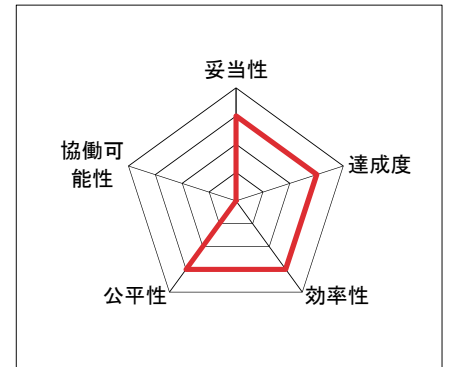
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢化に伴い利用者数が増えてきており、行政負担を含めた制度の在り方の見直しが求められる。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
997 千円 1,053 千円 56 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】 高齢者等が自立して快適な生活を送れるよう、今後も事業を継続しながら、事業内容や対象者の要件などを検討していくことが必要である。
(3) 改善状況 (何をどのような状態に改善したのか) 継続的に実施することで、高齢者の衛生的な環境を整備した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 高齢者への支援サービスであるため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 平成28年度以降に大幅な利用者の増加があり、事業の認知度が上がったと考えられる。
--

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) 高齢者等が自立して快適な生活を送れるよう、今後も事業を継続しながら、事業内容や対象者の要件などを検討していくことが必要である。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者日常生活支援事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	③	家具転倒防止事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成17年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 ・身体障害者手帳2級以上の方 ・要介護3以上の方 【内容】 家具転倒防止器具設置費用の9割を助成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が安心して生活できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	146	153	153	153	156
		決算	102	136	63	81	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		家具転倒防止事業委託				81	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
利用件数	件	見込	10	13	15	20	20
		実績	12	11	5	11	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
65歳以上のひとり暮らし高齢者や後期高齢者世帯宅などのタンスや書棚等に、家具転倒防止器具を設置し、その費用の9割を助成する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

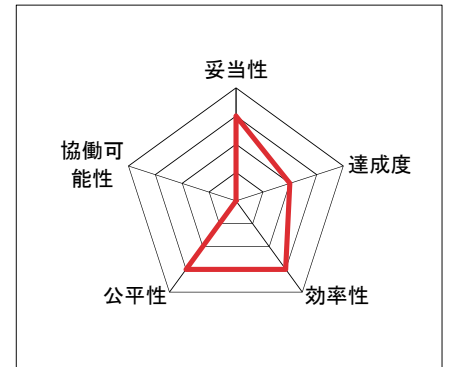
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成30年6月の大阪府北部地震、平成30年9月の北海道胆振東部地震により、防災に対する意識が高まり、申請件数が増加した。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
153 千円 156 千円 3 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
サービスの利用を促すための周知方法や更なる取付器具の種類の拡大について取り組む。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
取り付ける器具の種類の制限をなくし、家電も対象とした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
高齢者への支援サービスであるため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
実際の取付工事費の1割のみの負担で、地震に対応できる固定金具の取付を行うことができる。大地震が発生すると防災に対する意識が向上し、利用者が増加するが、時間の経過と共に意識が低下して申請件数も減少する。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
サービスの利用を促すための周知方法や、対象家具及び取付器具の拡大について取り組む。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者日常生活支援事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	④	高齢者防犯対策事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成17年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 【内容】 玄関前等にセンサーライトを取り付ける費用を9割助成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者宅の侵入盗等を予防することで、安心して生活することができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	207	207	122	224	273
		決算	121	224	273	175	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		高齢者防犯対策事業委託				175	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
利用件数	件	見込	20	22	25	15	15
		実績	8	15	18	12	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
65歳以上のひとり暮らしや後期高齢者世帯の玄関前などに、1世帯に1回限り、センサーライト1個を設置する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

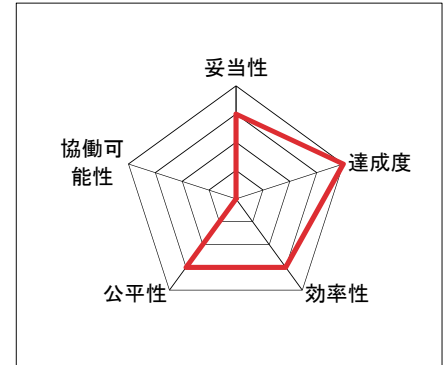
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢化、核家族化の進行によって、防犯対策による安心・安全な住環境の需要が高まっている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
224 千円	273 千円	49 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	改善・見直し	
・前年度【コメント】	事業の利用を促すため周知方法を改善するとともに、事業内容についても、センサーライト以外の防犯対策も視野に入れ見直す必要がある。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
近隣市町の動向を含め、改善方法について検討中である。		

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
高齢者への支援サービスであるため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
取付工事費の1割の負担で、センサーライトの取付を行うことができる。年度によって利用者の増減があるため、更なる事業の周知が必要である。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
事業内容について、センサーライト以外の防犯対策も視野に入れ見直す必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者日常生活支援事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	⑤	高齢者住宅改修事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】次のいずれにも該当する方 ・65歳以上の方 ・改修する住宅に住居登録されている方 ・市民税非課税世帯 【内容】手すりの取付、段差解消等の住宅改修費用を30万円を限度に補助する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が、バリアフリーの環境の中で快適な生活を送ることができる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	2,100 2,732	3,000 4,223	3,000 2,399	3,000 4,551	3,000
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		高齢者住宅改修事業補助金				4,551	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
補助金支給件数	件	見込	7	8	10	10	10
		実績	9	15	8	18	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
手すりの取付、段差解消等の住宅改修費用を30万円を限度に全額補助する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

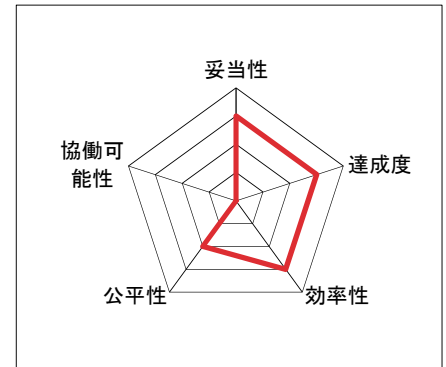
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
高齢化、核家族化によって、住宅をバリアフリー化する需要が高まっている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
3,000 千円 3,000 千円 0 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
高齢者が住み慣れた自宅で生活できるように、今後も継続しながら、財源確保や支給条件の見直しをしていく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
平成29年度からガス調理器を「日常生活用具給付事業」の対象である電磁調理器へ変更することも当該事業の対象とし、利用者にとって利用しやすい制度に見直した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	2
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
高齢者への支援サービスであるため				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
近年は、当初予算額を大幅に上回る申請があり、高齢化による住宅改修の必要性が高まっている。1件当たりの補助額が大きく、申請件数の増加に伴う財政負担が大きくなっている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
高齢者が住み慣れた自宅で生活できるように、今後も事業継続しながら、財源確保や支給条件の見直しなどをしていく。

7. 今後の方向性

改善・見直し